

## タスクホース趣意書

### 1.タスクホースの位置付けと名称と趣旨

#### (1)タスクホースの位置付け

電子情報通信学会ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)研究会のタスクホースとして行う。

#### (2)名称 ビジネスモデル 3.0 –アイデアから実動まで–

(3)趣旨 ビジネスモデルのアイデアに基づき、ビジネスモデルの設計を行い、その評価に基づきブラッシュアップを行った後、情報システムのブループリントであるビジネスアーキテクチャの設計を行い、これにより情報システムの実動化および評価を行う一連の手順を確立することを目指す。これにより、ビジネスモデルを支える情報システムの俊敏な実働を目指す。

(4)名称の思い ビジネスモデル 3.0 とは、Web 1.0 が「見る」だけの世界だったのが、Web 2.0 で「使う」世界が実現し、Web 3.0 で「作る、自由に加工する」世界が実現したことや、情報システムでは、第1世代がデータ処理システム、第2世代が、経営情報システム、第3世代がビジネス運用システムと進化したことなどを踏まえ、これに対応するビジネスモデルとの思いを込めています。

### 2.タスクホースホースの計画

- ・解決すべき課題と目標
- ・目標達成のための手順
- ・スケジュールと役割分担案

#### 2.1 解決すべき課題および目標

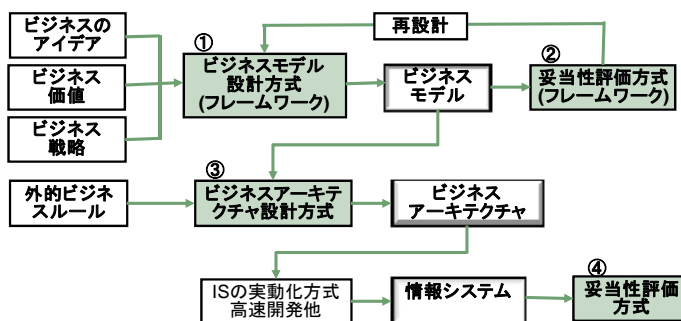


図1 タスクホース全体図

タスクホースの全体図を図1に示す。対象はICTの領域とする。

①ビジネスのアイデアを思いついた時にこれをビジネスモデルとする方式が確立していなかった。当タスクホースでは、ビジネスのアイデアを元に求めるビジネスの価値やビジネス

ス戦略を追加しビジネスモデルを設計する方式(フレームワーク)を確立することを目的とする。

現在世の中では、ビジネスモデルを分析する手順や、ビジネスモデルを記述する手順は存在するが、アイデアからビジネスモデルを設計する方式は確立していない。

②作成したビジネスモデルが妥当なものであるかどうかを評価する必要がある。これに対しては、世の中で色々な取り組みが行われてはいるが、まだ十分なものは無い。この方式で作成したビジネスモデルの妥当性を評価する方式を確立する。妥当性を評価し、適切で無い場合は、再設計を行う。

③次に、作成したビジネスモデルを実際のビジネスとして実施するためのビジネスアーキテクチャの設計方法の確立を行う。ここでのビジネスアーキテクチャとは、ビジネスモデル、ビジネスルール、ビジネスプロセスの複合体を意味する。このビジネスアーキテクチャは、ビジネスモデルを支える情報システムのブループリント(設計図)であり、これから情報システムの実動化を行う。実動化に当っては、世の中の情報システムの高速化手法を利用することにより効率的な実働化を目指す。(注)高速化手法としてはたとえば、GeneXusを利用する方法などがある。

④実動化された情報システムは、その妥当性を確認することによりビジネスアーキテクチャを評価する。

## 2.2 目標達成のための手順

### (1) ビジネスモデルを生成する方式の確立

ビジネスのアイデアを元にビジネスの価値やビジネス戦略を付け加えビジネスモデルを生成する方式の確立である。

このためには、次のような項目を検討して行くことが必要である。

#### ①ビジネスアイディアの記述方式

ビジネスアイディアをどのように定型的に記述するか。そもそもビジネスのアイデアを定型的に記述可能なのか。

#### ②付加するビジネスの価値やビジネス戦略の記述方式

- ・内なる仕組としてのビジネスの価値をどのように決定するか。

ビジネスの価値は、顧客満足度や収益力向上などの上位価値をサブ価値に分割して決定する方法が考えられる。サブ価値としては、上位の顧客満足度などをどのように実現しようとしているかなどの要素を分解していくこととなる。この時複数のサブ価値に対しては、ウェイト付けをすることにより調整をはかることなどが考えられる。さらにその価値がどのようなビジネスプロセスで作らだされているかを考えていく必要がある。

- ・外への仕組としてのビジネス戦略をどのように設定するか。

ビジネス戦略としての顧客とのリレーションシップ、顧客への価値提供方法であるチャンネル、顧客セグメント等をどのように設定するかを決定する必要がある。

### (2) ビジネスモデルの有用性の評価方式

- ・内なる仕組としてのビジネスの価値に対しては、各々のサブ価値に対する BSC(バランススコアカード)での KPI(キープラクティスインディケーター)を設定し、この KPI がどのように満足されるかを評価する方式などが考えられる。

- ・外への仕組に対しては、環境変数として捉え必要があり KPI 評価のときのパラメータの位置づけとなる。等を検討する必要がある。

**(3) ビジネスアーキテクチャの設計方式**

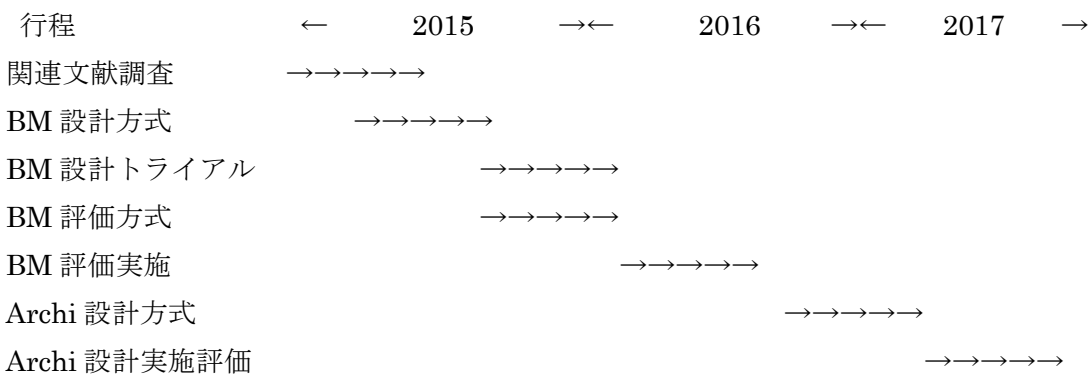
ビジネスアーキテクチャは、ビジネスモデル、ビジネスルール、ビジネスプロセスの連合体である。ビジネスモデルは前のステップより与えられる。ビジネスルールは、法律や業界ルールとして外部より与えられものと仕事の手順として内部で決定するものが存在する。また、ビジネスプロセスは、仕事の手順として内部的に設定するのである。これらを元にビジネスアーキテクチャを設計する方式を確立する。

**(4) 実動化された情報システム妥当性評価方式**

情報システムの有用性という課題は、大きな課題であり、様々な取り組みがされている。(情報システムの有効性評価 量的評価のガイドライン/質的評価のガイドラインなど)しかしここでは、一般論では、無く「ビジネス価値」や「ビジネス戦略」を適切に反映しているかどうかの観点より評価を行うことを考える。

**2.3 スケジュールと役割分担案**

3年をメドにタスクホースを設定する。月一程度の頻度で会合を設定するが詳細なスケジュールは、ある程度見通しができたところで設定するが概略下記を想定する。



当初は、ビジネスモデルやエンタープライズシステム評価などの文献の調査等から開始する。

メンバー毎の施策担当案を以下に示す。

|   | 作業項目             | タスクホースメンバー | 参加大学学生 | 参加企業 |
|---|------------------|------------|--------|------|
| 0 | 関連文献調査           | ◎          |        |      |
| 1 | ビジネスモデル設計方式      | ◎          | ○      |      |
| 2 | 新規ビジネスモデル設計トライアル | ○          | ◎      |      |
| 3 | ビジネスモデル評価方式      | ◎          | ○      |      |
| 4 | ビジネスモデル評価実施      | ○          | ◎      | ◎    |
| 5 | アーキテクチャ設計方式      | ◎          | ○      |      |
| 6 | アーキテクチャ設計実施評価    | ○          | ○      | ◎    |

### 3.タスクホース発起人

当タスクホースの発起人を以下に記載します.

片岡信弘(元東海大学)

堀米明(フィジオ)

小松昭英(ものづくり APS 推進機構)

五月女健治(法政大学)

増井久之(電気学会)

以上